

令和8年3月15日

TEL・FAX 0954-66-3113

発行責任者 江口常雄

き ず な

す 住 み よ い げん き な みどり さと おお くさ の 元 気 な 緑 の 郷 大 草 野

卒業まであとわずか、お別れの漏斗岳登山・・・(3月4日：水)

今年の登山は、前日が小雨模様で、おそらく足元が悪く滑って登りにくいだろうな、と思っていましたが、“やっぱり”でした。それでも、少しずつ着実にみんな登って行きます、今年の子どもたちは、落ち着いています。去年は、「キャーッ！」とか「ワーッ！」などの悲鳴があちこちから聞こえていたように思いますが、滑る足元に”苦情”らしき声は聞こえますが、悲鳴とまではいきません。コロナ禍で入学してきた子どもたちは、自然と身に付いた苦境への対応能力があるのか？と、思いながら後ろからついて行きました。ふと、背後を見ると、私より2歳年下の同級生ふたりが、つらい表情をしつつ無言で登っています。



15人の大切な同級生です、これからもずっと仲良くしてください。

なかでも、「漏斗岳に60年ぶりに登る」と言っていた中野公民館活動部会長は、「頂上にはもう来ないのかな？」と思うくらい遅れて上がってきました。だから、下山するときの中野部会長の膝は、産まれたての小鹿より震えていて、可哀そうというか面白いというのか？ 70才は、まだまだ老いるには早いですよ、アンチエイジングをして、「老いるショック」を乗り越えましょう。

令和2年4月入学のこの子たちと同じときに、私もコミュニティ事務局1年生になりました。この子たちの入学式の取材が、私の初めての取材でもありました。懐かしくなって、令和2年4月の初めての「きずな」を見直しました。その「きずな」も卒業生たちに記念にプレゼントしたいと思います。

今年の登山で特に思ったことは、単に登って、自分たちが生まれ育った大草野の地を眺めさせるだけでなく、頂上で大草野地区の地形や歴史について、講話をしてもらえる山好きの先生がおられたら、



逆光で残念ですが、麓には我が故郷があります。

もっと素晴らしい卒業記念登山になるだろうな、ということと、そのためには、頂上付近の左右と足もと付近の視界をもっと広げないと、樹木が大きくなって景色を遮っています。これからも、この大草野地区を大切に思って育ててもらうために、我々Gメンは頑張っていきたいと思います。

漏斗岳登山の環境整備をいつか行いたいと思いますので、そのときはご協力ください。



ポジティブ、最強！ 6-1

暖かくなっていたのに寒の戻り 校区内一斉清掃 (3月1日:日)

2月中旬からはずいぶん暖かくなっていましたが、この日は、薄めの上着を着ていたらちょっと寒かったです。7時に研修センターを出て、毎回早い時間帯の万才、角ノ谷の方に向かうと、角ノ谷は、すでに終



今朝は、冷ようになったね!



姉ちゃん、朝飯食うたね?

了時の挨拶があっただけで、止まらずに万才区の公民館へ向かいました。すると、あちこちに人影はありましたが、ここも終わろうとしていました。

万才区では、他の区と比べると、けっこう子どもたちの姿を多く見かけます。そんなこともあってか、この一斉清掃を楽しく維持するためのアイデアが、お父さん世代から出ていました。福田区長もずいぶん乗り気なようです。コミュニティとしては、この行事を楽しんで継続していただくことは願ってもないことで、ぜひ、アイデアが実ることを祈っています。



こちらは、朝から大勢で!

この日は、次に漏斗岳の登山道整備が控えていたので、南上、下区に行き、それから式浪区から三坂区を抜けてと五代区へと状況を見て回りました。どこの区も、皆さん早起きで、各区回覧の開始時間には、殆ど終了するような感じでした。いつもありがとうございます。お疲れ様でした!

卒業生のための 登山道整備でした! (3月1日:日)

宮原PTA 会長、藤川副会長の若手の参加を得て、平均年齢75歳前後で漏斗岳に入っていました。

今回、初めて参加いただいた田口順二さんが、枯れて危なそうな木を見つけては、「次、これを倒して!」とチェーンソーを持った会長に声を掛けていきます。足元が濡れて滑るなかで、思うように先に進めません。私事ながら、ここ数年で花粉症になり、鼻水が止まらず、思うように作業が出来ませんでした。



チェーンソーが、大活躍!

9時過ぎから登り始めて、頂上に着いたのが11時ころ、頂上の草を刈り、



顔より、膝が笑っている人も!

視界を遮る木を倒し、一息ついてから下山を始め、12時過ぎに研修センターに戻りました。本番当日の天候が良かれと願い、また卒業生たちが安全にお別れ登山が出来ればと思います。表の記事にも書いていますが、山頂からの視界がだいぶ悪くなりました。手入れが必要そうです、そのときは、皆様のご協力をお願いいたします。

あんなに「他者への配慮」をしなくても、国を治め、さらには国際関係さえも切り切れるなら、「配慮」という、人間関係において必要不可欠だと思っていた考えが無駄なことだったような気がさえてくる。

あの人の大切なものは、「自分ファースト」だけなのか? あの人には、少なくともこれまで米国が「世界のリーダー」であったという自覚や自負、矜持はまったく無さそうだ。

わがままに育った大金持ちのボンボンが、やりたい放題の様子しか見えてこず、「大統領」という椅子の力はそんなにも強大なのか、と小さな島国で、タマゴかけご飯が最高のごちそうだと思つて育つた小心者の私には、まったく理解の外にある。

最近、ネット社会の進展とともに「他者の評価」を気にする人は増えたようだが、「他者への配慮」という感情は脳の隅々に追いやられている人が増えたように感じる。

あんな性格の人が、もし自分の家のすぐそばに住んでいたら……と想像するとゾッとしてくる。恐らく、ギクシヤクした隣人関係を強いられるだろう。

お山の大将は、やがて「裸の王様」になっていくことは誰もが想像できる。

あの人の様子を見てみると、母がいつも言っていた戒めの言葉である「我がこと褒めるうう馬鹿もん」を思い出す。

へへ編集後記
お山の大将は……